ありま

令和８年 10 月 30 日
学校だより１１月号
川崎市立有馬小学校

「待ち」から生まれる二つの感情

学校長　　吾妻　典子

日頃の教育活動にご理解・ご協力をいただきありがとうございます。

雨続きの 9 月から一転して晴れの日が多い 10 月となりました。街中のクリスマスツリーやおせち料理の宣伝などを目にすると、なんとなく何かしなければいけないような義務感にかられ、気忙しい気持ちになります。長年の節目を迎える習性が身についているのでしょうか・・・

さて、今週の月曜日から水曜日まで、5 年生の子どもたちとの自然教室に行ってきました。八ヶ岳少年自然の家の老朽化に伴い、今年度から初めての場所での施設利用でしたが、改めて子どもたちの適応能力や神奈川県の広さを感じた２泊３日となりました。学校から２時間弱での移動時間で、川崎とは全く違う自然風景が現れます。山々に囲まれ、緑豊かな広い施設内に子どもたちの感嘆の声が上がります。同じ神奈川県とは思えないくらいの自然を目の当たりにしました。

そして、いつもの環境とは全く異なり、不便さを感じる施設内外、泊を伴う友達とのかかわりも非日常的な時間が流れていきます。集団としての行動力、判断力、決められた時間内での動きも家の自由さとは噴泥の差です。そんな中でも自然と子どもたちの動きに変化が生まれていきます。友達と一つ一つやり遂げていく中で、他者と歩調を合わせ、行動していく。そして、互いの声掛け、協力、自己我慢など様々な感情が個々を成長に導きます。また、日常とは違う時間の流れの中で、子どもたちは自分一人だけではできないことを思い知らされます。野外炊飯やハイキング・お風呂や食事、宿泊、キャンプファイヤーなどいつも集団としての動きが要求されるからです。

その動きの中に「待ち」の行動が加わります。時に「待つ側」は『思いやり』という行動に表れます。「待たれる側」になれば、『感謝』が生まれます。そして、「待つ側」「待たれる側」どちらになるかは場面毎に変わっていきます。他にも他者を意識し、集団として互いに気持ちよく過ごすためには、自分と他者への思いを天秤にかけて、自分は今、どうすべきなのか咄嗟に判断します。たった 2 泊 3 日ですが、子どもたちの中にはそういった感情が大きく自分自身を揺さぶったのです。

初めは不便さに不満を言っていた子どもたちも、友達と過ごす中で不便さよりも楽しさが優位に立ち、思い出深き、貴重な時間となったことと思います。



この経験が学校生活上でどう生かされていくのか、これからがとても楽しみな時間が過ごせそうです。



◯教育相談窓口：相談窓口担当は、支援教育コーディネーターです
◯学校巡回カウンセラーの来校日は、１１月１２日、１１月２７日です。
＊相談ご希望の方は、電話でお申し込みください。（担当：支援教育 CO　有馬小学校 866-1447）